

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：健康増進対策費

事業名 親子で楽しむ健康づくり推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 保健医療課 健康増進係 電話番号：058-272-1111(内3316)

E-mail：c11223@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 420 千円 (前年度予算額： 467 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	467	0	0	0	0	0	0	0	467
要求額	420	0	0	0	0	0	0	0	420
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

南飛騨健康増進センターは県民や一般来訪者が様々な健康法を気軽に楽しみながら学習、体験、実践し、交流できる県民の「健康道場」としての機能がある。これまでは高齢者を対象とした健康寿命を延ばすための心と身体健康づくりを実践していたが、その対象者を子供とその親の世代まで広げ、それぞれふれあいながら体力向上と身体健康増進を目指す運動を展開する。

(2) 事業内容

下呂市萩原町四美地区に所在する南飛騨健康増進センターを健康づくり拠点施設として、森林、里山、温泉施設を活用した各種体験講座を親子で楽しみながら、心と体の健康維持を推進する。

1. 「親子で楽しむ健康講座」

南飛騨健康増進センターの森林や施設を使い、「自然観察」、「キャンプ体験」、「クラフト」、「クッキング」などの、日常的でない健康体験を親子で行うことにより、リフレッシュ効果を得ることを目標とする(年間25回開催)。

来年度は、より多くの人に周知するためタウン誌への広告を行う。

2. 「オリエンテーリング体験会&教室」

例年開催している研修会であるが、令和7年度は「ねんりんピック」が開催されるため、中止とする。

(3) 県負担・補助率の考え方

県10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	216	「親子で楽しむ健康講座」講師への報償費
旅費	54	「親子で楽しむ健康講座」講師への旅費
需用費	120	「親子で楽しむ健康講座」に係る消耗品費等
役務費	30	「親子で楽しむ健康講座」に係る郵送料、保険料
合計	420	

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

南飛騨健康増進センターの知名度・魅力を高め、老若男女多くの県民に利用される施設とするとともに、南飛騨の地域特性を活用した県の健康増進の拠点施設とする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

県の健康増進の拠点施設としての機能を果たしているかどうかの指標は、単に利用者数だけでは判断できないため。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で楽しむ健康講座は18回開催することができ、近隣地域からの参加者を呼び込むことができた。 ・同講座及びキャンプ縄文のチラシを下呂市内の小学校の他、関係機関へ配布及びタウン誌への無料イベント広告を行い施設の利用を促進した。 ・日帰りバス旅行は、12名の参加（1回開催）があり、健康づくりへの関心と当センターの知名度の向上について一定の効果があつた。 <p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>
令和5年度	<p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で楽しむ健康講座は19回開催することができ、近隣地域からの参加者を呼び込むことができた。また、参加者も前年度の145名から203名と40%の増となった。 ・同講座及びキャンプ縄文のチラシを下呂市内の小学校の他、関係機関へ配布及びタウン誌への無料イベント広告を行い施設の利用を促進した。 <p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>
令和6年度	<p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南飛騨アートディスカバリーの開催の関係で、親子で楽しむ健康講座は19回の開催を予定していた講座が14回となった。そのため参加者は前年度の203名から98名の減となった。アートディスカバリーで中止となった講座は小学校、こども園を対象とした大人数の講座が含まれており約100名の減と想定されるため、それを考慮する、前年度並みに当センターの周知ができたと考えられる。 ・同講座のチラシを下呂市内の小学校の他、関係機関へ配布及びタウン誌への無料イベント広告を行い施設の利用を促進した。 <p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	心と体の健康維持や病気の発症予防の推進による県民の健康寿命の延伸に資するなど、県の健康づくりの拠点施設として活用していく必要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	センターの知名度が低いという課題はあるが、健康体験講座に対する県民の満足度は高く、リピーターも多い。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	講座参加者、地元関係者の意見を聞き、事業の実施方法や施設整備への反映を検討している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 センターの知名度を向上させるための積極的なPRを実施するとともに、センター単発ではなく、民間の知恵や南飛騨地域の特性・資産等を活用した誘客事業を行う必要がある。
--

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県の事業が縮小される中、地元は地域の活性化のため、地元講師主体の講座の開催、ボランティアによる環境整備を続けている。当事業は県主体の講座としては唯一の事業であり、参加者からの評判も良い。地元住民感情を考慮すると今まで以上に登場に注力し、南飛騨道新センターの周知と、地域の活性化を図る必要がある。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	